京都府医師確保計画

令和２年３月

京　都　府

【目次】

第１．基本的事項 …… 1
　１　医師確保計画策定の趣旨 …… 1
　２　医師確保計画の全体像 …… 2
　３　計画の期間 …… 2
　４　医師確保計画に基づく施策の実施体制 …… 2

第２．医師確保の方針 …… 3
　１　医師の現状 …… 3
　２　医師確保の方向性 …… 17
　３　重点領域の設定 …… 22
　４　医師確保に係る施策 …… 27

第３．産科・小児科における医師確保 …… 34
　１　産科・小児科における医師の現状 …… 34
　２　産科・小児科における医療需要と将来推計 …… 43
　３　産科・小児科における医師確保の方向性 …… 46
　４　重点領域の設定 …… 48
　５　産科・小児科における医療提供体制の今後の方向性 …… 51
　６　産科・小児科の医師確保のための取組 …… 52

第４．外来医療 …… 53
　１　外来医療の現状 …… 53
　２　外来医師多数区域の設定 …… 59
　３　外来医療提供体制の協議を踏まえた取組 …… 60
　４　外来医師多数区域における新規開業者に求める事項 …… 63

第５．医療機器の効率的な活用 …… 64
　１　現状 …… 64
　２　医療機器の配置状況の可視化 …… 64
　３　医療機器ごとの配置状況等 …… 66
　４　京都府における医療機器の共同利用の取組 …… 67

第６．医師確保計画の効果の測定・評価 …… 68

京 都 府 医 師 確 保 計 画

第１．基本的事項

１　医師確保計画策定の趣旨

○　医師の確保については、医師の地域間及び診療科間の偏在を是正するため、地域医療を担う医師の養成を目的に、地域枠の設置や奨学金制度の創設、医師臨床研修制度の見直し等の対策が行われてきたところですが、未だに偏在解消が図られていない状況にあります。

○　このため、平成 30 年(2018 年) 7 月、「医療法及び医師法」が一部改正され、都道府県においては、三次医療圏間及び二次医療圏間の偏在是正による医師確保対策等を、医療計画の中に新たに「医師確保計画」として令和元年度中に策定することとなりました。

○　京都府では、今年度、20 年後に実現したい京都府の将来像として「一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府をめざして」を掲げ、京都府総合計画（京都夢実現プラン）を策定しました。医療に関しては、「全ての地域で質の高い医療体制が確保」されていることを目指しており、更に、今後４年間の対応方向として府民の健康を守る医療の充実のために医療人材の育成・確保を進めることとし、医師については偏在の解消を進めることとしています。

○　また、平成 28 年(2016 年)度に策定した「地域包括ケア構想」に基づき、限られた医療資源を有効に活用し、必要とされる方それぞれの状態にふさわしい適切な医療・介護を効果的・効率的に提供する体制の構築を図っているところであり、これらの計画の実現に向けた目標と手段を提示するため本計画を策定することとしました。

２　医師確保計画の全体像

○　国の示す医師偏在指標に加え、京都府独自の分析により、医師の確保が必要な地域等を設定します。

○　地域の医療現状を分析し、必要な医療提供体制の構築を検討するとともに、医師確保の方針を定め、必要な施策に取り組みます。

○　本計画中、別に、産科及び小児科に係る医師確保について定め、また、外来医療についても、地域で特に必要とされる医療機能等について定めます。

３　計画の期間

○　本計画の期間は、令和２年（2020 年）度から令和５年（2023 年）度の４年間とし、その後３年ごとに、ＰＤＣＡサイクル（目標設定→取組→評価→改善）に基づく見直しを行い、長期的には国が定める目標年である令和 18 年（2036 年）までに必要な医師の確保や医師偏在の是正を行うこととします。

４　医師確保計画に基づく施策の実施体制

○　医療機関、大学、地域の医療関係者等から構成する京都府医療対策協議会において、医師確保計画に定める対策を具体的に実施するに当たっての協議・調整を行い、オール京都体制で取組を進めます。

　また、医師の働き方改革を踏まえた対応が必要とされることから、京都府医療勤務環境改善支援センター及び地域医療の機能分化・連携の方針等をふまえ、地域医療構想調整会議とも連携して施策を進めていきます。

第２．医師確保の方針

１　医師の現状

○　京都府の医師数は年々増加し、人口 10 万人当たりの医師数が全国で２番目に多い状況（医師・歯科医師・薬剤師調査:平成 28 年 12 月末）ですが、医療圏ごとでは京都・乙訓のみ全国平均を大きく上回り、その他は全国平均以下となっており、地域偏在がみられます。

（１）医師数等

①「医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成 28 年 12 月末現在）

京都府の医療施設に従事する医師数は 8,203 人で、人口 10 万人当たりの医師数は 314.9 人と全国平均（240.1 人）を大きく上回っています。

ただし、医療圏ごとの人口 10 万人当たりの医師数をみると、京都・乙訓が 394.6 人に対し、丹後 175.3 人、中丹 217.2 人、南丹 177.3 人、山城北 184 人、山城南 133 人といずれも全国平均を大きく下回っています。

［平成 18 年（2006 年）と比較した医師数の推移］

・ 医師数について府域全体としては、増加傾向(14%)にあり、全国的な動向(16%)とほぼ同じです。ただし、北部地域(丹後、中丹)は、ほぼ横ばい状態(1%)にあり、山城南は増加(25%)しているものの、人口も増加しており、人口 10 万人当たりの医師数が府内でもっとも低くなっています。

・ 病院医師数は、936人(20%) 増え、全国平均（20%）と同程度の増加率ですが、診療所医師数は55人（２%）増え、増加率は全国平均（８%）を下回っています。また、診療所医師割合は31%と、全国平均（34%）を下回っています。

医師数推移

（単位:人、%）

	医療施設従事医師数								人口10万人対 医療施設従事医師数		
調査年	H14	H16	**H18**	H20	H22	H24	H26	**H28**	H18	**H28**	対H18比
国全体	249,574	256,668	**263,540**	271,897	280,431	288,850	296,845	**304,759**	206.3	**240.1**	116.4
病　院	159,131	163,683	**168,327**	174,266	180,966	188,306	194,961	**202,302**			
診療所	90,443	92,985	**95,213**	97,631	99,465	100,544	101,884	**102,457**			
府全体	6,811	6,815	**7,212**	7,340	7,545	7,789	8,037	**8,203**	272.8	**314.9**	115.4
病　院	4,426	4,467	**4,746**	4,900	5,033	5,280	5,539	**5,682**			
診療所	2,385	2,348	**2,466**	2,440	2,512	2,509	2,498	**2,521**			
丹　後	169	160	**167**	157	160	165	167	**168**	151.6	**175.3**	115.6
中　丹	461	441	**421**	420	427	424	431	**423**	200.4	**217.2**	108.4
南　丹	209	229	**243**	234	244	242	245	**241**	165.3	**177.3**	107.3
京都・乙訓	5,265	5,233	**5,573**	5,716	5,831	6,066	6,249	**6,411**	343.8	**394.6**	114.8
山城北	607	641	**682**	675	735	738	792	**803**	153.1	**184.0**	120.2
山城南	100	111	**126**	138	148	154	153	**157**	114.4	**133.0**	116.3

出典:医師・歯科医師・薬剤師調査＊各年12月末現在

［平成 18 年（2006 年）と比較した性年齢別医師数の推移］

・男性医師は、588人（10%）増えた一方、女性医師は、同期間に403人（29%）増えました。平成28年（2016年）の女性医師割合は22%で、平成18年（2006年）の19%を上回っています。

・平均年齢は、48.9歳で平成18年（2006年）を1.3歳上回っています。年齢構成別にみると、50～64歳は620人（37%）増え、他の年代より高い増加率ですが、うち、女性医師の増加率が大きくなっています。65歳以上の医師は、205人（18%）増えました。65歳以上の医師の比率は、平成18年（2006年）は16%、平成28年（2016年）は16%と増減はありません。

性年齢別　医師数の推移（平成18年との比較）

（単位：人、%）

		平成18年	平成28年	平成18年→平成28年	
				増減数	増加率
医療施設従事医師数		7,212	8,203	991	14%
人口10万対		272.8	314.9	42.1	15%
男性医師数		5,816	6,404	588	10%
女性医師数		1,396	1,799	403	29%
医療施設従事医師　平均年齢		47.6歳	48.9歳	1.3歳	3%
医療施設従事医師数	24-34歳	1,798	1,758	-40	-2%
	35-49歳	2,622	2,828	206	8%
	50-64歳	1,670	2,290	620	37%
	65歳以上	1,122	1,327	205	18%
	75歳以上（再掲）	522	473	-49	-9%
男性	24-34歳	1,225	1,212	-13	-1%
	35-49歳	2,166	2,104	-62	-3%
	50-64歳	1,458	1,903	445	31%
	65歳以上	967	1,185	218	23%
	75歳以上（再掲）	433	419	-14	-3%
女性	24-34歳	573	546	-27	-5%
	35-49歳	456	724	268	59%
	50-64歳	212	387	175	83%
	65歳以上	155	142	-13	-8%
	75歳以上（再掲）	89	54	-35	-39%

出典：医師・歯科医師・薬剤師調査＊各年12月末現在

［診療科別医師数］

・全国的に診療科偏在が言われている小児科、産科（産婦人科含む）の平成 28 年（2016 年）の医師数は、それぞれ 439 人（小児人口 10 万人当たり 140.7 人）、263 人（女性人口 10 万人当たり 47.4 人）であり、いずれも全国平均を上回っているものの確保が困難な状況です。

・医療圏ごとの人口 10 万人当たりの医師数をみると、内科、産婦人科、脳神経外科、放射線科等の８つの基本診療科で京都・乙訓以外の医療圏が全国平均を大きく下回っています。

②「医師確保計画策定に係る診療科別医師数調査」（令和元年（2019 年）９月実施）

「医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成 28 年 12 月末現在）では、明らかにならない診療科別、性・年齢別内訳や常勤医師、非常勤医師の割合について、京都府独自に調査を実施しました。

［対象医療機関］

府内 167 病院のうち期限内に回答のあった 147 病院（回答率 88.0%）

［基準日］

令和元年（2019 年）８月１日現在

［結果概要］

・常勤医師 3,741 人のうち、女性医師は 723 人で全体の 19%を占めますが、うち 20 代は 31.2%、30 代は 28%と若い世代ほど女性医師の割合が多くなっています。女性医師の割合の高い診療科は、産婦人科（49.3%）、眼科（47.1%）、麻酔科（41.7%）となっています。一方、女性医師の割合の低い診療科は、泌尿器科（2.5%）、整形外科（4.2%）、臨床検査（4.5%）となっています。ただし、京都・乙訓以外の医療圏では、女性医師がいない診療科も多く、性別における地域偏在もあります。

・非常勤医師は常勤換算で 1,339 名と全体の 26.4%を占め、うち 30 代の割合は 47.6%と半数を占めています。非常勤医師の割合の高い診療科は、皮膚科（39.2%）、形成外科（35.8%）、眼科（30.6%）、一方低い診療科は、総合診療科（7.6%）、臨床検査（8.8%）、救急科（14.5%）となっています。

医師数調査結果　（単位：人）

		常勤医師			非常勤医師		計 (a+b)
		医師数 (a)	男性	女性	医師数	常勤換算 (b)	
計		3,741	3,018	723	5,645	1,339	5,080
年代別内訳	20代	333	229	104	405	191	524
	30代	915	659	256	2,696	638	1,553
	40代	1,128	898	230	1,218	229	1,357
	50代	807	708	99	707	137	944
	60代	437	409	28	407	90	527
	70歳以上	121	115	6	212	53	174

③診療所

地域で中心的に外来医療を担う診療所は京都・乙訓医療圏に偏っています。

また、診療所に従事する医師数は全体の 31%で、その割合は減少傾向にあります。

京都府の二次医療圏別施設数・医師数　（単位：箇所、人）

医療圏		施設数		医師数	
		病院	診療所	病院	診療所
全国		8,412	101,471	202,302	102,457
京都府		169	2,459	5,682	2,521
	丹後	6	78	116	52
	中丹	17	165	286	137
	南丹	10	100	154	87
	京都・乙訓	109	1,721	4,559	1,852
	山城北	24	302	499	304
	山城南	3	93	68	89

出典：平成 29 年度医療施設調査／平成 28 年医師・歯科医師・薬剤師調査

④その他

［臨床研修・新たな専門医制度］

・平成 16 年（2004 年）度からの医師臨床研修制度により、全国的に大学の附属病院で研修する医師が減少する一方で、都市部の病院で研修を受ける医師が増加しています。

・さらに平成 21 年（2009 年）度からの都道府県別定員上限制の下で、府内の臨床研修医の全体数が減少しています。（H16(2004)：264 人→R1(2019)：243 人）

・新たな専門医制度において医師確保困難地域で勤務する専攻医※の研修環境の充実等、若手医師のキャリア形成支援が重要です。

（※専攻医：新たな専門医制度に則り、専門医を取得するための研修を行っている医師）

［府内の大学及び自治医科大学］

・平成 20 年（2008 年）４月以降、医学部定員が全国的に増員する中で、府内の京都大学医学部及び京都府立医科大学でもそれぞれ定員が増員されました。（両大学とも H19(2007)：100 人→H22(2010)：107 人）

・特に京都府立医科大学では、国の「緊急医師確保対策」等に基づき地元出身者を対象に推薦入試を実施しており、「地域枠医師※」として京都府立医科大学附属病院での臨床研修後に北部地域など医師確保困難地域における地域医療を担う人材を養成しています。

（※地域枠医師：大学医学部が設定する地域医療等に従事する明確な意思をもった学生を、一般入試とは別枠で選抜し、京都府と地域枠に係る契約を締結した上で大学を卒業した医師）

・自治医科大学には、京都府からは毎年２名程度が入学し、地域医療を担う重要な役割を果たしています。

北部地域への派遣実績

【自治医科大学卒業生の状況：令和元年５月現在】

へき地医療勤務者			義務年限終了者（へき地医療勤務者除く）	研修中（初期・後期）
義務年限期間中	義務年限終了者	小計		
18 名	20 名	38 名	48 名	5 名

【京都府立医科大学地域枠卒業生の状況：令和元年５月現在】

へき地医療勤務者			義務年限終了者（へき地医療勤務者除く）	研修中（初期・後期）
義務年限期間中	義務年限終了者	小計		
13 名	0 名	13 名	0 名	19 名

［女性医師等］

・医学部入学者に占める女性の割合は約３分の１であり、医師数に占める女性医師の割合も増加傾向にあります。特に、小児科や産婦人科といった医師不足が顕著な診療科の医師には女性が多く、出産や育児、介護等を理由とした休職や離職等が多く見られます。

・定年退職医師及びベテラン医師が地域で開業する際の支援等セカンドキャリアを応援することで、医師偏在解消につなぐ取組みが必要です。

［在宅医療を担う医師］

・令和７年(2025 年)の在宅医療等の必要量（居宅・介護施設等で提供される医療の必要量）は平成 25 年（2013 年）度と比べて約 1.8 倍に増加すると推計されており、診療所の医師等が高齢化する中、在宅医療等を担う人材の確保や医療資源等の地域間格差の解消が必要です。

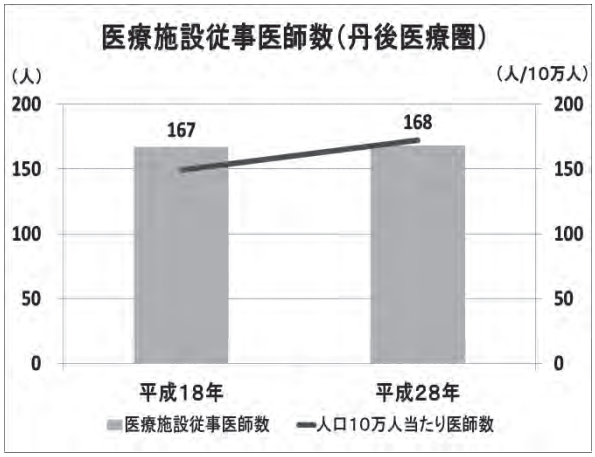
・医師不足や地域偏在が深刻化する中、地域に暮らす人々の健康をあらゆる面から支え、幅広い診療に対応できる総合診療医の育成及び確保に取り組むことが必要です。

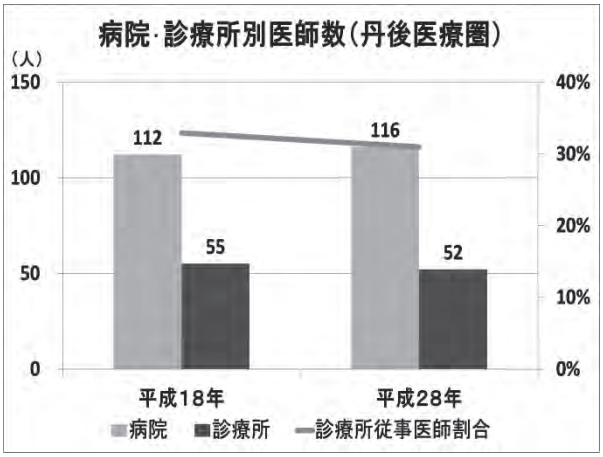
（２）医療圏ごとの概況 ＜医師数の推移（平成18年（2006年）との比較＞

① 丹後医療圏

・総人口は14,307人（-13%）減少しました。医療施設に従事する医師数は、１人（１%）増加しました。平成28年（2016年）の人口10万人当たり医師数は175.3人であり、全国平均（240.1人）と比べて低いレベルにあります。人口10万人当たり医師数は16%増え、その伸び率は全国平均（16%）と同程度となっています。

・病院医師は、４人（４%）増え、全国平均（20%）を下回る増加率、診療所医師は、同期間に３人（－５%）減り、全国平均（８%）を下回る増加率となっています。平成28年（2016年）の診療所医師割合は31%と、全国平均（34%）を下回っています。





医師数の推移　（単位：人、%）

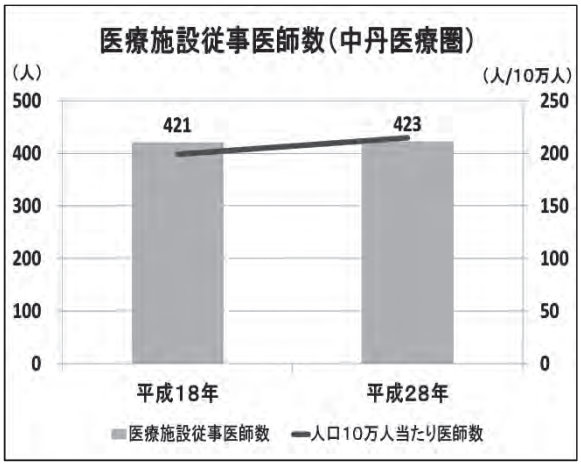
丹後医療圏	平成18年	平成28年	平成18年→平成28年	
	実数	実数	増減数	増加率
総人口	110,146	95,839	-14,307	-13
医療施設従事医師数	167	168	1	1
人口10万対医師数	151.6	175.3	23.7	16
病院従事医師数	112	116	4	4
人口10万対医師数	101.7	121.0	19.4	19
診療所従事医師数	55	52	-3	-5
人口10万対医師数	49.9	54.3	4.3	9

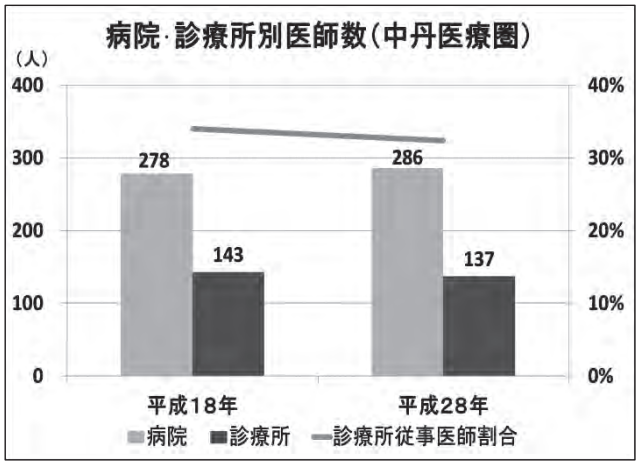
出典：医師・歯科医師・薬剤師調査　※各年 12 月末現在

② 中丹医療圏

・総人口は15,375人（－７％）減少しました。医療施設に従事する医師数は２人（０％）増加しました。平成28年（2016年）の人口10万人当たり医師数は217.2人であり、全国平均（240.1人）と比べて低いレベルにあります。人口10万人当たり医師数は８％増え、その伸び率は全国平均（16%）を下回っています。

・病院医師は、８人（３％）増え、全国平均（20%）を下回る増加率、診療所医師は、同期間に６人（－４％）減り、全国平均（８％）を下回る増加率となっています。平成28年（2016年）の診療所医師割合は32%と、全国平均（34%）を下回っています。





医師数の推移　　（単位：人、%）

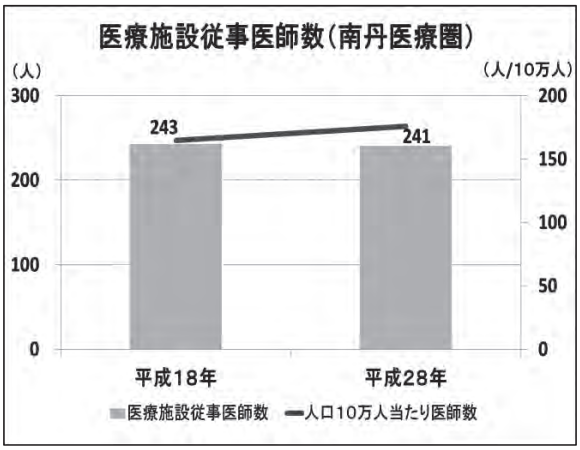
中丹医療圏	平成18年	平成28年	平成18年→平成28年	
	実数	実数	増減数	増加率
総人口	210,163	194,788	-15,375	-7
医療施設従事医師数	421	423	2	0
人口10万対医師数	200.3	217.2	16.8	8
病院従事医師数	278	286	8	3
人口10万対医師数	132.3	146.8	14.5	11
診療所従事医師数	143	137	-6	-4
人口10万対医師数	68.0	70.3	2.3	3

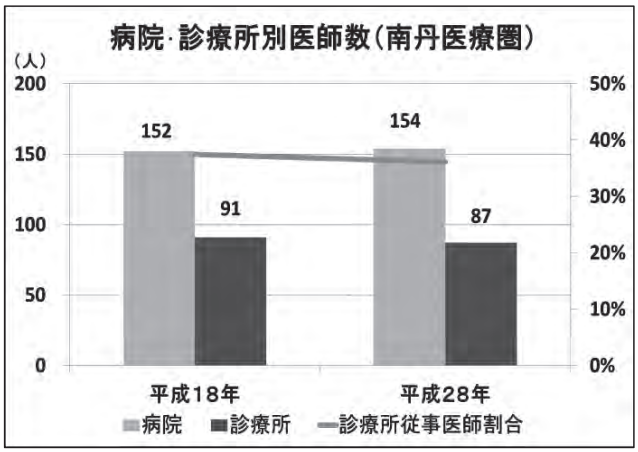
出典：医師・歯科医師・薬剤師調査　※各年 12 月末現在

③ 南丹医療圏

・総人口は11,168人（－７％）減少しました。医療施設に従事する医師数は２人（－１％）減少しました。平成28年（2016年）の人口10万人当たり医師数は177.3人であり、全国平均（240.1人）と比べて低いレベルにあります。人口10万人当たり医師数は７％増え、その伸び率は全国平均（16%）を下回っています。

・病院医師は、２人（１％）増え、全国平均（20%）を下回る増加率、診療所医師は、同期間に４人（－４％）減り、全国平均（８％）を下回る増加率となっています。平成28年（2016年）の診療所医師割合は36%と、全国平均（34%）を上回っています。





医師数の推移　　（単位：人、%）

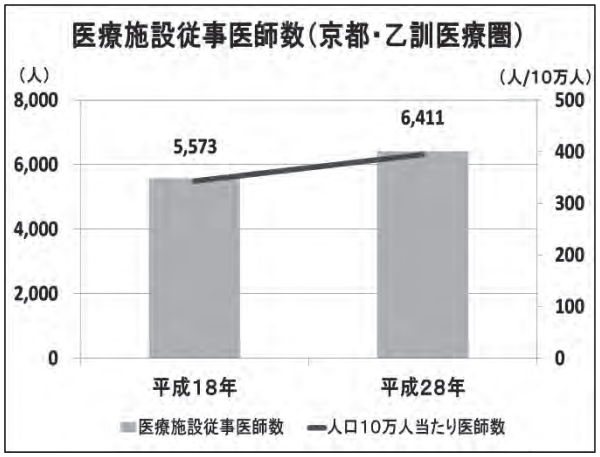
南丹医療圏	平成18年	平成28年	平成18年→平成28年	
	実数	実数	増減数	増加率
総人口	147,068	135,900	-11,168	-7
医療施設従事医師数	243	241	-2	-1
人口10万対医師数	165.2	177.3	12.1	7
病院従事医師数	152	154	2	1
人口10万対医師数	103.4	113.3	10.0	9
診療所従事医師数	91	87	-4	-4
人口10万対医師数	61.9	64.0	2.1	3

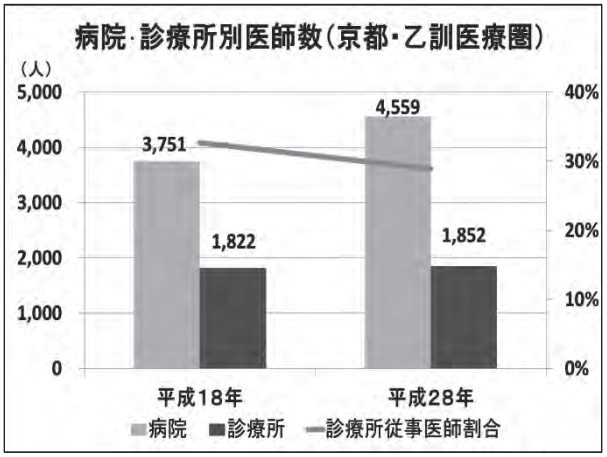
出典：医師・歯科医師・薬剤師調査　※各年 12 月末現在

④ 京都・乙訓医療圏

・総人口は1,530人（０%）増加しました。医療施設に従事する医師数は838人（15%）増加しました。平成28年（2016年）の人口10万人当たり医師数は394.6人であり、全国平均（240.1人）と比べて高いレベルにあります。人口10万人当たり医師数は15%増え、その伸び率は全国平均（16%）を下回っています。

・病院医師は、808人（22%）増え、全国平均（20%）を上回る増加率、診療所医師は、同期間に30人（２%）増え、全国平均（８%）を下回る増加率となっています。平成28年（2016年）の診療所医師割合は29%と、全国平均（34%）を下回っています。





医師数の推移　　（単位：人、%）

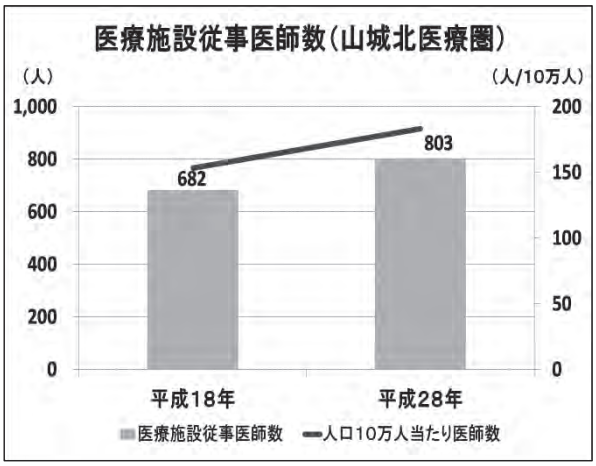
京都・乙訓医療圏	平成18年	平成28年	平成18年→平成28年	
	実数	実数	増減数	増加率
総人口	1,623,203	1,624,733	1,530	0
医療施設従事医師数	5,573	6,411	838	15
人口10万対医師数	343.3	394.6	51.3	15
病院従事医師数	3,751	4,559	808	22
人口10万対医師数	231.1	280.6	49.5	22
診療所従事医師数	1,822	1,852	30	2
人口10万対医師数	112.2	114.0	1.7	2

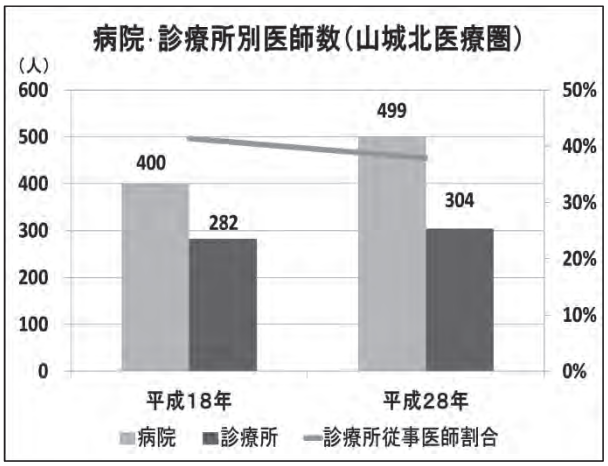
出典：医師・歯科医師・薬剤師調査　※各年12月末現在

⑤ 山城北医療圏

・総人口は8,905人（－２％）減少しました。医療施設に従事する医師数は121人（18%）増加しました。平成28年（2016年）の人口10万人当たり医師数は184人であり全国平均（240.1人）と比べて低いレベルにあります。人口10万人当たり医師数は20%増え、その伸び率は全国平均（16%）を上回っています。

・病院医師は、99人（25%）増え、全国平均（20%）を上回る増加率、診療所医師は、同期間に22人（８％）増え、全国平均（８％）と同程度の増加率となっています。平成28年（2016年）の診療所医師割合は38%と、全国平均（34%）を上回っています。





医師数の推移　　（単位：人、%）

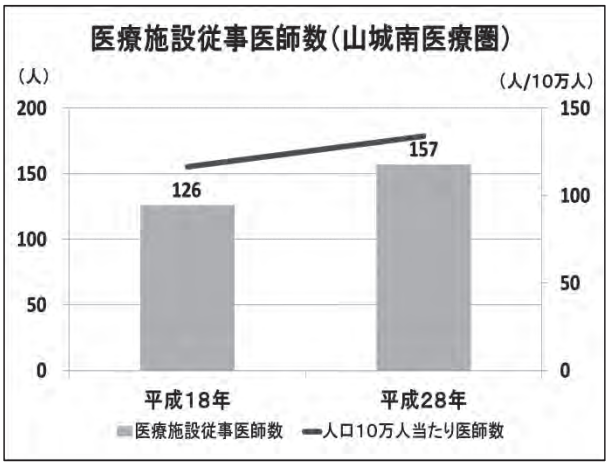
山城北医療圏	平成18年	平成28年	平成18年→平成28年	
	実数	実数	増減数	増加率
総人口	445,333	436,428	-8,905	-2
医療施設従事医師数	682	803	121	18
人口10万対医師数	153.1	184.0	30.8	20
病院従事医師数	400	499	99	25
人口10万対医師数	89.8	114.3	24.5	27
診療所従事医師数	282	304	22	8
人口10万対医師数	63.3	69.7	6.3	10

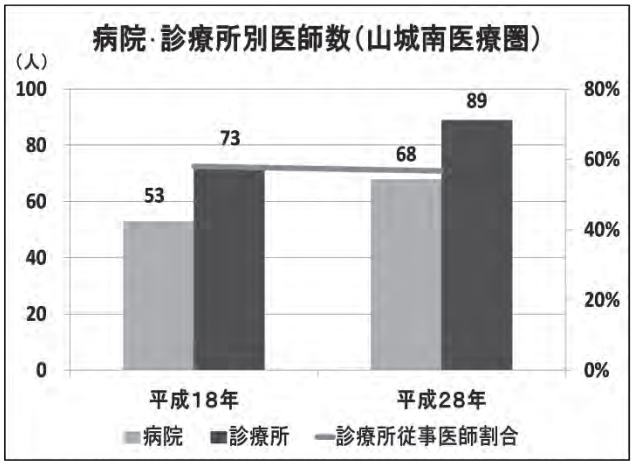
出典：医師・歯科医師・薬剤師調査　※各年 12 月末現在

⑥ 山城南医療圏

・総人口は7,994人（８%）増加しました。医療施設に従事する医師数は31人（25%）増加しました。平成28年（2016年）の人口10万人当たり医師数は133人であり、全国平均（240.1人）と比べて低いレベルにあります。人口10万人当たり医師数は15%増え、その伸び率は全国平均（16%）を下回っています。

・病院医師は、15人（28%）増え、全国平均（20%）を上回る増加率、診療所医師は、同期間に16人（22%）増え、全国平均（８%）を上回る増加率となっています。 平成28年（2016年）の診療所医師割合は57%と、全国平均（34%）を上回っています。





医師数の推移　　（単位：人、%）

山城南医療圏	平成18年	平成28年	平成18年→平成28年	
	実数	実数	増減数	増加率
総人口	110,049	118,043	7,994	8
医療施設従事医師数	126	157	31	25
人口10万対医師数	114.5	133.0	18.5	15
病院従事医師数	53	68	15	28
人口10万対医師数	48.2	57.6	9.4	18
診療所従事医師数	73	89	16	22
人口10万対医師数	66.3	75.4	9.1	13

出典：医師・歯科医師・薬剤師調査　※各年 12 月末現在

（３）医師偏在指標

①国の医師偏在指標の考え方

これまで、地域ごとの比較は人口 10 万人当たりの医師数が用いられてきましたが、新たに医師の性・年齢別による労働量や住民の性・年齢構成等による医療需要等の要素を考慮し、医師偏在指標が算定されました。

＜国が医師偏在指標算出に考慮することとした要素（国ガイドライン）＞

5要素
- ・医療需要（ニーズ）及び人口・人口構成とその変化
- ・患者の流出入等
- ・へき地等の地理的条件
- ・医師の性別・年齢分布
- ・医師偏在の種別（区域、診療科、入院／外来）

＜医師偏在指標の算定方法＞

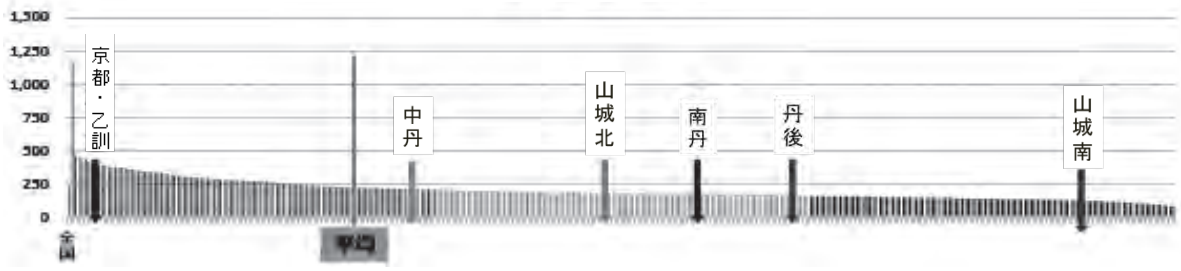
$$\text{医師偏在指標} = \frac{\text{標準化医師数}}{\text{地域の人口／10 万} \times \text{地域の標準化受療率比}}$$

国の医師偏在指標

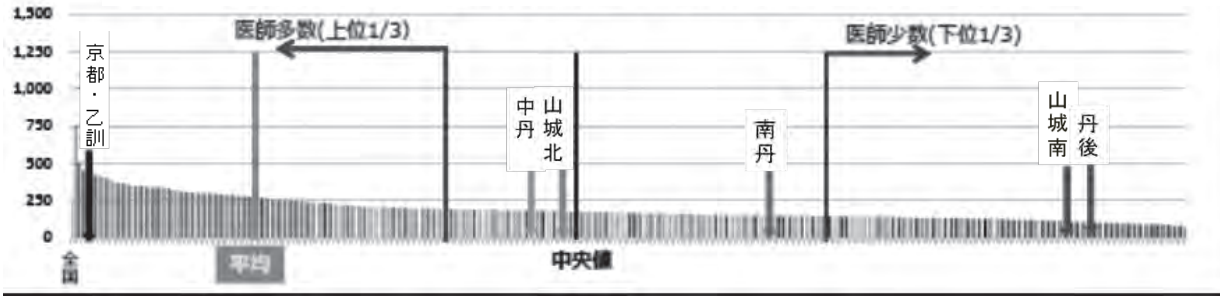
医療圏	指　標	全国比＊	全国順位	区域
全国	239.8	100		
京都府	314.4	131	2	多　数
丹後	134.9	56	298	少　数
中丹	184.0	77	149	
南丹	166.4	69	206	
京都・乙訓	397.3	166	4	多　数
山城北	178.8	75	163	
山城南	141.5	59	285	少　数

＊全国を 100 とした場合の割合

人口 10 万人対医師数による京都府内二次医療圏の状況



国の医師偏在指標における京都府内二次医療圏の状況



参考：（国ガイドライン）

医師多数区域・医師少数区域と医師確保の考え方

	医師多数区域	医師多数でも少数でもない区域	医師少数区域（医師少数ｽﾎﾟｯﾄ含む）
定　義	医師偏在指標の上位33.3%の属する二次医療圏	医師多数区域でも少数区域でもない二次医療圏	医師偏在指標の下位33.3%の属する二次医療圏
二次医療圏（区域）	・他の二次医療圏からの医師確保は行わない。 ・医師少数区域への医師派遣も求められる。	必要に応じて、医師多数区域の水準に至るまでは医師多数区域からの医師確保が可能	・医師の増加を基本 ・医師少数区域以外の二次医療圏から医師の確保が可能

②京都式の医師偏在指標の考え方

国の医師偏在指標においては、「京都府の受療率が用いられていない」、「へき地等の地理的要因が反映されていない」ため、地理的条件をはじめ京都府の地域の実態に即したものになるよう、国が算定した指標について、独自の要素を考慮して補完しました。

＜京都府の独自要素＞

医療側の要因：大学等医育機関の教員・大学院生の臨床従事時間を考慮
患者側の要因：京都府の患者受療率を活用して補正
地 理 的 要 因：医療機関までのアクセス時間を考慮

【京都式医師偏在指標】

国の医師偏在指標を補正（ａ、ｂ）× 医療機関までのアクセス（ｃ）

ａ　医療側の要因について
・大学等医育機関の教員・大学院生の臨床従事時間を考慮するため、京都府の病院における医師の勤務実態等に関する調査結果（平成 29 年８月）を活用して補正
ｂ　患者側の要因について
・京都府の医療ニーズを加味するため、京都府の患者受療率を活用して補正
＊厚生労働省：平成 29 年患者調査
ｃ　地理的要因について
・医療機関までのアクセスを考慮するため、医療機関からの車での移動時間により算出した人口カバー率を活用
＊移動時間は（ESRI 社の Network Analyst を使用（通常の一般車両））
・全国比較は、道路総延長距離あたりの可住地面積の比率による
＊国土交通省：平成 29 年道路統計年報／総務省：平成 29 年統計でみる都道府県(市町村)のすがた

京都式の医師偏在指標

医療圏	指　標	全国比＊	重点順位
全国	215.0	100	
京都府	286.5	133	
丹後	94.1	44	1
中丹	164.9	77	4
南丹	141.1	66	2
京都・乙訓	363.6	169	6
山城北	186.8	87	5
山城南	159.5	74	3

＊全国を 100 とした場合の割合